

令和5年度

第2回陸別町学校運営協議会

学校説明資料

陸別町立陸別中学校



令和5年10月10日

陸別中学校保護者 各位

陸別町立陸別中学校
校長 伊澤理紀

令和5年度 学校評価アンケート結果を生かした今後の学校運営について

秋冷の候、保護者の皆様におかれましては、益々ご清祥のこととお喜び申し上げます。

さて、今年度実施いたしました、第1回目の学校評価アンケートの結果について、比較分析を行い、まとめましたのでお知らせいたします。

本校では、例年、年2回実施しアンケート結果の考察・分析をしているところですが、課題が見られる部分につきましては、改善に向けてさらなる取組を学校全体で行って参ります。今後とも、ご支援とご協力のほど、よろしくお願いいたします。

記

1 調査結果の分析・考察について

(1) 生徒の結果より

数値が高い項目

「気持ちのよい挨拶、返事、きれいな掃除ができるようがんばっていますか」 (3.6pt)

「学校ははじめのない学級・学校づくりに努力していますか」 (3.5pt)

数値が低い項目

「将来の進路や職業について自分なりの考えをもち、その実現に向けた努力をしていますか」 (2.7pt)

「家庭学習によく取り組んでいますか」 (2.8pt)

※特に文章表記による意見はなし

(2) 保護者の結果より

数値が高い項目

「学校は、健康・安全や体力向上を目指す指導ができていますか」 (3.3pt)

「お子さんは楽しく学校に通っていると思いますか」 (3.3pt)

数値が低い項目

「お子さんは自分から進んで家庭学習に取り組んでいますか」 (2.8pt)

「子どもが家庭学習をするように支援することができていますか」 (2.9pt)

学校運営全般に関わりいただいたご意見

「9月の連休に、夏季・冬季休業日をあてて長い休みにするのはやめていただきたいです。」

→カナダ研修(今年度も中止)を実施するための日程を確保するため、休み期間を設定しています。次年度以降も町実施の行事と調整をし、適切な設定に努めます。

「タブレット上で課題を提出することがありますが、エラーになってしまうことも多く、そのたびに課題ができなかったり、せつかくやっても提出できなかったりして、子どもが気を揉んでいます。できなかったときに、生徒の不利益にならないようにしていただきたいです。」

→ICTの活用には、まだまだ課題もあります。もちろん生徒たちの不利益にならないように取り扱うとともに、適切な運用に努めます。

「テストの試験時間に、チャイムから遅れて教室にくる先生がいたと聞きました。試験時間は正確にして頂けると有り難いです。」

→ご心配をかけて申し訳ありません。もちろん生徒たちの不利益にならないように取り扱うとともに、再発防止に向けて職員の意識を高めていきます。

※個別の意見に対しては各々対応させていただきます。いずれも真摯に受け止め、改善・発展に努めます。

(3) 教職員の結果より

数値が高い項目

- 「個に応じた指導など基礎・基本の確かな定着を目指し、わかりやすい授業づくりを進めていますか」 (3.7pt)
- 「生徒とよく触れ合い、一人ひとりの生徒理解に努めていますか」 (3.6pt)
- 「常にいじめのない学級・学校づくりのため十分な指導を行っていますか」 (3.6pt)

数値が低い項目

- 「生徒が自ら進んで家庭学習に取り組んでいると思いますか」 (2.0pt)
- 「生徒は、自分で目標を持ち、新たなものに挑戦していると思いますか」 (2.7pt)

(4) 三者共通項目の比較より

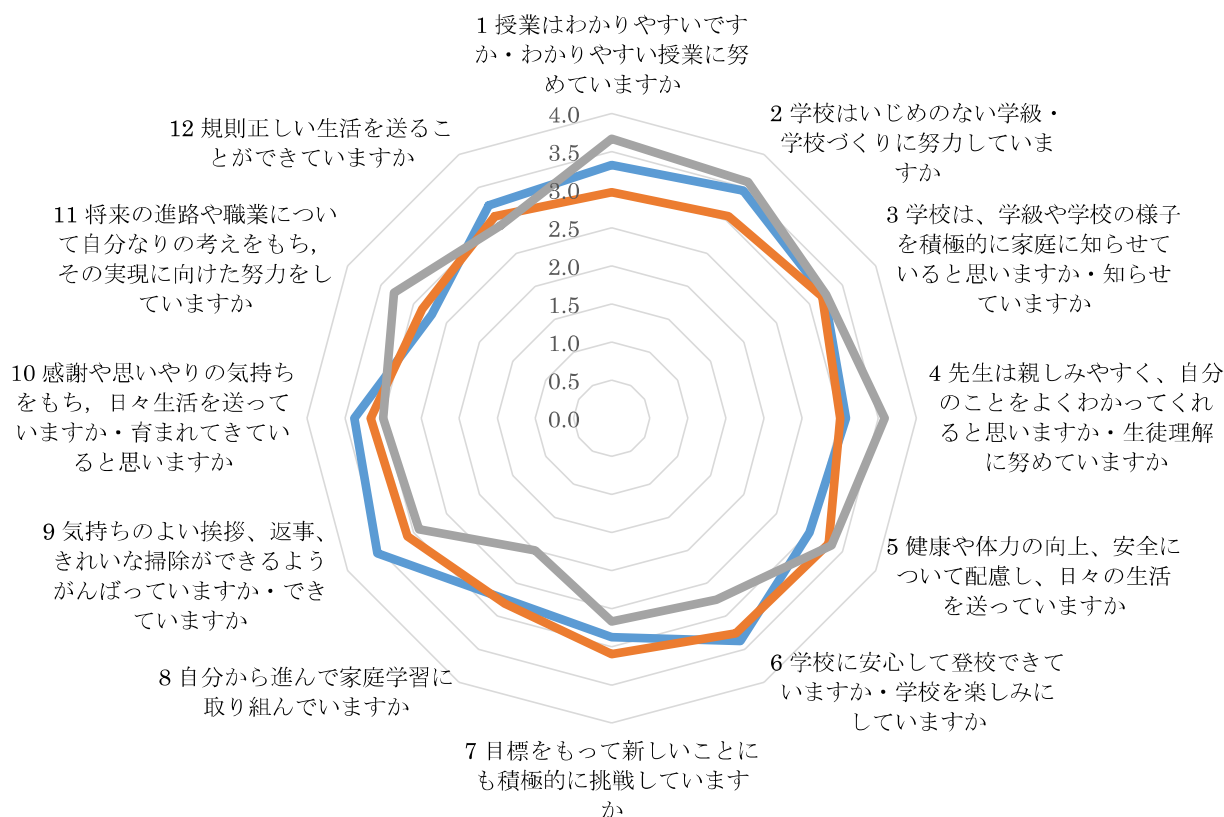
○ 昨年同期と比較して、三者とも数値が上昇している項目が多く、三者が共通して上昇しているのが「学校に安心して登校できていますか・学校を楽しみにしていますか」の項目でした。ただ、他の上昇している項目は、三者間で異なっているため、そのことがレーダーチャートのずれにつながっていると考えます。三者が共通に成長を感じ、分かち合えるような手立てが必要です。

● 三者ともに低い数値となっているのが、「自ら進んで家庭学習に取り組んでいる」でした。そのことが、「将来の進路や職業～」の項目とも関連して低い数値になっているものと考えます。発達段階に応じた情報提供や進路学習を進めるなど、改善に向けて努めます。また、タブレット端末の持ち帰りを進めています。適切な活用方法について生徒たちへの指導を継続します。

また、保護者と学校間での情報共有・相談体制づくりに努め、生徒たちのよりよい学びと育ちへ向けて、共通認識のもと協力していくことが今後も大切だと考えます。

令和5年度 前期学校評価共通項目結果

— 生徒 — 保護者 — 教員



令和5年度 陸別中学校 学校経営について（中間反省）

1 子どもたちに育成したい資質能力

*自己肯定感 ・コミュニケーション力 ・学力 ・ふるさとへの愛着と誇り

2 重点目標 『子どもたち一人一人の良さを伸ばし、可能性を引き出す』

3 重点目標の達成に向けて

【子どもたち一人一人の可能性を引き出す教育の推進】

(1) 未来社会を担うための資質・能力をはぐくむ

- ・ 検証改善サイクルによる教育活動の改善
- ・ タブレット等を活用した「個別最適な学び」と「協働的な学び」の充実
- ・ SDGs、ESDを核に据えた体験的学習や問題解決的学習の推進

(2) 健康でたくましい体をつくる

- ・ 感染症対策や健康教育の推進
- ・ 新体力テストを活用した授業改善と体力向上の取組の推進

(3) 豊かな人間性をはぐくむ

- ・ 自己肯定感の育成
- ・ 体験や講話による多様性への理解
- ・ 読書に親しむ機会の確保

① コロナの影響をほぼ受けることなく、予定していた教育活動が実施できた。

一方で、熱中症対策のため、授業や部活動に影響が生じた。

② 3階図書館を2階への移設を検討中。

図書スペースとし、本へ親しむ機会の拡大と生徒の居場所づくりとしたい。

【学びの機会を保障し質を高める環境の確立】

(1) 安心して過ごせる居場所づくり

- いじめへの組織的な取組と生徒が主体的に考える場の設定
- 不安定な生徒への支援と学びの機会の確保
- 実践的訓練等による安全教育の充実

(2) 信頼される学校づくり

- 教職員の資質能力の向上と不祥事の未然防止
- 働き方改革と学校運営体制の充実
- 家庭や地域との双方向関係の構築（学校評価、情報発信）

- ① 不安定な生徒への対応として、学校の支援教室（ブルーム）の開設、町の教育支援センター開所、リモートによる家庭学習など学びの保障。
- ② 学校公式ブログによる情報発信。

【地域と歩む持続可能な教育の実現】

(1) 連携による子どもの学びへの支援

- 小中一貫による切れ目のない学びの場の充実
- 学習習慣、生活習慣の確立に向けた家庭や地域との連携
- コミュニティ・スクールを要とした地域からの支援の拡充
- 部活動の地域移行に向けた取組の検討

(2) 地域のヒト・モノ・コトを活用した学校教育の推進

- 各種施設を活用した歴史・文化・芸術・科学に接する機会の充実
- ふるさと教育「陸別ふるさと科」、キャリア教育の推進

- ① 小中合同の研修会、乗り入れ授業などを実施している。
- ② 地域での職場体験学習や保育所訪問、地域の人材を活用した食育などを行った。

令和6年度に向けて

1. 小中一貫教育の充実

- ふるさと学習を「りくべつ学」として再編成し、小中一貫した内容にしていく。
- 中学生による小学生への学習サポート（小学校の長期休業時）
- 教育研究所、生徒指導連絡協議会など様々な組織を一貫教育の中に位置付ける
- 小中分掌の一体化。まずは「研修部」から

2. 学年担任制（チーム担任制）の導入

☆ 一人の学級担任ではなく、学年団教員全員が担任となって対応していく体制へ

- 「生徒が様々な先生と日常的に相談でき、支援をうけることができる」
- 「生徒と担任教員のミスマッチが解消できる」
- 「生徒が担任から自立し、主体性が育まれる」
- 「学級担任に集中する業務を平準化できる」
- 「教員の休暇取得や柔軟な勤務形態が容易になる」
- 「教員が互いに見る 学び合いの機会が増える」

※ 学年団内の意思疎通、チームワークが欠かせない。

3. その他

- (1) 制服、校則の見直し
- (2) 登校時の自転車ヘルメットの義務化
- (3) 部活動の地域移行に向けて

<保護者・関係機関への説明日程>

- | | |
|-------|-----------|
| 11/28 | 学校運営協議会 |
| 12/ 1 | 陸中PTA三役会議 |
| 12/16 | 参観日・全体懇談 |
| 2/ ? | 新入生説明会 |